

## 会 議 録

名 称	平成27年度 目黒区廃棄物減量等推進審議会（第4回）
日 時	平成27年10月30日（金）午前10時～正午まで
会 場	目黒区総合庁舎本館1階 E会議室
出席委員 （敬称略）	安井、庄司、平尾、小林（か）、川原、松嶋、西崎、團村、小林（富）、亀甲、大竹、藤橋、小林（雅）、角田、古城、平田、大越
区側職員	荒牧環境清掃部長、織田清掃リサイクル課長、石田環境保全課長、伊藤清掃事務所長
傍 聴 者	2名
配布資料	資料1-1 目黒区一般廃棄物処理基本計画改定素案について 資料1-2 目黒区一般廃棄物処理基本計画改定素案概要について 資料1-3 目黒区一般廃棄物処理基本計画改定の考え方（施策） 資料1-4 目黒区一般廃棄物処理基本計画素案 資料2 平成26年度目黒区のごみ量と資源量について 資料3 目黒区環境基本計画の改定の進め方について
会議次第	<p><b>1. 開 会</b></p> <p>20人中、出席者は17人であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。</p> <p><b>2. 議題</b></p> <p>以下、発言者名・名称は下記のとおり表記する。</p> <p>環境清掃部長・・・・・・・・・・部 長 清掃リサイクル課長・・・・・・・・リ課長 清掃事務所長・・・・・・・・・・事務所長 環境保全課長・・・・・・・・・・環課長</p> <p><b>（1）一般廃棄物処理基本計画改定素案について</b></p> <p>リ課長 （資料1-1から1-4により説明）</p> <p>会 長 この計画の内容を、一般区民、ごみを排出する事業者、転入者、単身者などに理解をしてもらうための工夫が必要である。スマートフォンからの情報収集が中心の人にも、絵や動画を使って伝えるなど、いろいろな立場で参加している委員の皆さんに、効果的な広報について意見をいただきたい。</p> <p>委 員 この会に参加して、雑がみのリサイクルや水切りの必要性を感じている。不動産関係の代表として参加しているので、月1回の会合でこの計画を紹介していき、集合住宅の管理について大家の側から広げていきたいと考えている。</p> <p>リ課長 現在も、若者にも読んでもらえるようなリーフレットを作成して、不動産協会などにも提供している。</p> <p>委 員 単身者が多いところでは分別のルールが守られていないと感じている。賃貸住宅の居住者に対して、水切りの方法やごみを100g減量するための具体的な方法</p>

	<p>などを、視覚に訴えると、効果があるのではないか。</p>
リ課長	<p>ビジュアル的に直感でわかるような資料を作っていきたい。ポスターは集合住宅の集積スペースには貼らせてもらえるが、路上の集積所は、集積所であることを知られたくないという意見もあり、貼れないところもあるので工夫が必要である。</p>
委員	<p>若者は紙のものは読まないと思う。横浜市は G30 というキャッチフレーズをつくって、いろいろな場所にポスター等で掲示したため、市の姿勢が市民に理解できたと考える。目黒区でもわかりやすいキャッチフレーズが必要と考える。</p>
委員	<p>素案の P25 を例にすると「ギュギュッと 100g」などのキャッチフレーズが必要と考える。区民 1 人 1 日あたり 100g のごみ減量で年間 10,000t のごみが減ることを、写真などで実感できるような普及啓発が必要である。</p> <p>P24 の図は「区民 1 人 1 日」と「区民 1 人 1 人」が混在しているため統一が必要である。</p>
リ課長	<p>現在も若者向けリーフレットを作成している。キャラクターとして若い男女を使い、1 日の生活の中で取り組めるごみ減量について、ビジュアルで表現している。</p>
会長	<p>よくできていると思うが、どこまで読んでもらえるかが課題である。</p>
委員	<p>事業者団体の代表として参加しているが、当団体の加盟 250 社のうち、小規模事業所は家庭ごみと一緒に集積所に出しているところが多い。小規模事業者向けのパンフレットなどがあれば会員企業に配布したい。</p>
リ課長	<p>本計画の改定を機に普及啓発のツールを見直したい。</p>
委員	<p>若い人は出勤時にごみを出すことが多く、ルールで決められた朝 8 時を過ぎて出す人が多い。町会で手分けをして集積所にチラシを貼ったが、ほとんど見てもらえてないようだ。地域外の人が車で捨てていくこともある。集合住宅はいつでもごみを出せるが、分別マナーが悪く、住民が分別せずに持ってきたごみを管理人が仕分けをしているところもある。</p>
リ課長	<p>区には、集合住宅の管理人からの声も寄せられている。要望に応じて、排出曜日や排出時間の部分を記入できるポスターなどを提供している。ビジュアル的な工夫をして、このようなツールがあることを知らない管理人や不動産会社に対しても普及させたい。新しいものを作るだけでなく、既存のツールを行き渡らせることも必要である。</p>
会長	<p>困っている事例を紹介して情報交換することも重要である。集合住宅の管理もうまくいっているところとそうでないところがあるので、情報交換をすることで変わっていく可能性がある。</p>
事務所長	<p>集合住宅についてマナーが悪いとの苦情があれば、指導班で対応している。管理人がいない場合は、オーナーに連絡をして戸別にパンフレットを配布する場合もある。</p>
委員	<p>情報交換は大切である。町会で勉強会を開催しているが、表札を掲げていない</p>

人などは参加していない。近所に4世帯のアパートができたが、集積所がなく、私道のため所有者の許可がないと中までごみ収集に入れられないため、離れた場所にごみを出しているがマナーが悪い。アパートでは回覧板を回すことができないところもある。ある人に、雑がみを出すのに紙袋を利用できることを伝えたら、「紙袋は断っています」と言われたことがある。小学校の自由研究の発表会でごみ減量がテーマとして取り上げられておりうれしかった。収集1回あたり45リットル袋で4袋までしか出してはいけないことはあまり知られていない。

リ課長 紙袋については、「ごみになるほどの大量の紙袋をもらわない」とこと、「家にある紙袋は雑がみを出すときに使える」という趣旨を伝えていきたい。

10月は3R推進月間なので、区でも標語やポスターを掲示していた。今年は例年の5倍の応募があった。清掃事務所が実施している環境学習も好評であり、少しの工夫で区民の関心を高められることを感じている。

委 員 販売業界では新店を立ち上げるときにはマーケティングリサーチを行う。ごみの問題点は出した人の素性がわからないことだと思う。地域別の分別状況などを調査して、悪いところを指導していくことで、全体的な改善を図ることはできないか。横浜市の厳しい分別が市民に理解されている要因として、横浜市民はプライドが高く、横浜市に住んでいるのだからごみもちゃんと出そうという意識があることだと考える。目黒区民も同じような誇りがあると思うので、そのあたりを利用した告知や教育が必要と考える。

リ課長 P14～15にかけて昨年度実施した調査結果を紹介している。たとえば、戸建住宅は集合住宅に比べてごみ量が多いことや、戸建の中でも居住者の年齢が高いほど、自炊が多いためかごみ量が多い傾向が読み取れる。これらの結果を踏まえて、対象別の情報提供と普及啓発を考えたい。P16の表では、燃やせるごみの4割が生ごみという結果があり、水切りの重要性がわかる。目黒区はごみ減量に対する意識が高い区なので、この計画改定をきっかけにムーブメントを起こしたいが、お金をかけられない部分は工夫をしていきたい。特に、若者を対象とした普及啓発についてのアイデアがほしい。

委 員 私の世代でもLINEを使うので、動画やスマートフォンはよいと思う。目黒区に住んでいることに特にプライドは感じなかったが、そのことで街をきれいにするのを盛り上げるのであればよいと考える。

委 員 私は横浜市で生まれて実家が横浜にある。10年以上前、横浜市はごみの分別をまったくしておらず、市に問い合わせたところ、焼却施設の能力が高いから分別をしなくてもよいという回答であった。区民1人1日あたり100gのごみ減量の例は、家族世帯、若者の単身世帯など、属性別に例を作って訴えることが効果的と考える。

生ごみを減らす実験を、小学校の環境学習で行うことも有効ではないか。

この計画は10年間の計画なので、今年はこれ、来年はこれなどの重点テーマを決めることも有効ではないか。

	<p>委員 社会保険労務士をしており、小規模事業所にリーフレットを配っても誰も読まないのでは、A3 のポスターを貼るようお願いしている。日頃何気なく目にしていけば意識に残るので、郵便受けにチラシを投函するよりポスター掲示が有効と考える。</p> <p>マナーの問題は、子どもから親に伝えることが効果的である。また、おじいちゃん、おばあちゃんは孫の言うことはよく聞くので、小学校にポスターを掲示してはどうか。</p> <p>リ課長 環境学習はたいへん盛り上がる。清掃事務所職員の実演を見てから帰宅した子供たちが、家族と一緒に3Rのポスターを書いてもらうことなどで、家庭に普及できると感じている。警視庁の隈取りのポスターが各方面で大人気であるが、このようなインパクトのあるもので、たとえば見ただけで不法投棄をする気がなくなるようなものがよい。</p> <p>民間のキャンペーンにある「サラリーマン川柳」のように、市民が参加しやすくシンプルで訴求力のある施策が必要である。</p> <p>委員 集積所数が年々増加し、路地裏でも集積所があるので、重点施策に集積所の指導強化と表彰制度があることはよいと思う。うまくいっているところと困っているところの情報交換でよいものをひろめることが大事である。集積所に設置する資源コンテナであるが、路地にあわせた大きさのものを作るなど多様性が必要である。</p> <p>事務所長 いろいろな大きさの資源コンテナは難しいが、心にとめておきたい。</p> <p>地域で専用の集積所をつくるのが原則であるが、障害者のみの世帯等でごみ出しができない場合には戸別収集をしている。</p> <p>会長 本審議会にも若手のメンバーがいた方がよいと考える。目黒区には東京大学をはじめ大きな大学がいくつかあるので、学生に声をかけてみてはどうか。</p> <p>委員 紙ベースでの情報を見ない人は動画を作ってもみないと思う。</p> <p>ごみ量の推移のグラフを見ると、ごみ減量は限界に来ていると思うので、ごみの有料化を進めた方がよいのではないかと。</p> <p>リ課長 関心の低い人に対する情報発信は難しいが、工夫の余地はあると考えている。</p> <p>たとえば、多くの人に視聴してもらえる人気コンテンツに、ごみ減量のエッセンスを入れることなども漠然と考えている。従来のごみ減量の取組が頭打ちに近いことは、ある意味その通りだと思うが、組成調査の結果を見ると、ごみの中には分別により資源化できるものがまだ残っている。何かひとつ大きな施策を打つことよりも、小さなことを積み重ねていくことが重要である。</p> <p>有料化は大きな課題であるが、戸別収集との兼ね合いもある。また、有料化の適正なコストなどは先行自治体でも議論が分かれている。排出者がわかることによるごみ減量効果など、どのくらいの効用を見込めるか、区民にサービスに見合う対価として認めてもらえるか、また、隣接区への不適正排出など、さまざまな課題がある。今計画では論点を絞り、前進させていきたい。</p>
--	--

	<p>会 長 今、ごみについては誰も困っていないという現実がある。多摩地域に比べれば恵まれた最終処分場もある。多摩地域では最終処分場の延命化のためにエコセメントを導入しており、費用がかかるので有料化している。資源価格も安定して資源制約の問題もなく、温室効果ガスの排出という面から焼却できないことが問題になると考える。23区のごみ処理は3層構造になっているが、誰も困っていない中でごみの有料化を区民に説明できない。有料化については導入する理由がないと考える。</p>
	<p>委 員 今の若者は物心ついたときからデフレしか経験していないので、お金に対してはシビアである。ごみ処理経費について情報を公開し、ごみ減量が税金の節減につながることをアピールすればよいのではないか。</p>
	<p>部 長 目黒区では清掃・リサイクルに年間40億円を使っているが、大半は収集・運搬経費である。目黒清掃工場の建て替えに300億円かかり寿命が25～30年なので、年間10億円の計算になる。ごみ1tを処理するためのコストは15,000円であるが、これ以外にも国の補助金があり、これも結局は税金である。ごみは減らすことができるが、福祉は減すことはできない。可能なものをできるだけ減らしていくという視線が必要と考える。</p> <p>千葉市では3つの清掃工場を2つに減らすため有料化を導入した。目標が明確なので市民に理解してもらいやすい。23区は3層構造なので、23区全体での対応が必要であり、何のための有料化なのかを理解してもらうことが必要である。</p>
	<p>委 員 ごみ処理費用の情報公開については、自治体の努力が不足しているという面もあるが、ごみという性格上曖昧にならざる得ない部分もある。たとえば単価は重量あたりで算定されているが重量では、はかれない部分もある。ごみ処理には何も残らず、かけたお金はすべて無駄になり、得るものがない。ごみは煙にまってしまうだけである。ごみを減らせばその分、福祉や教育のように益のあるものに使用できる。</p>
	<p>委 員 大牟田市のエコタウンを視察してきた。レアメタルの回収システムがあり、民間企業を誘致し、雇用を生み出している。企業にヒアリングをしたところ、小型家電に含まれるレアメタルの含有量が減少してきているので採算が合わなくなってきたとのことである。</p>
	<p>会 長 エコタウンができたのは1997年である。当時はペットボトルのリサイクルが大問題であったが、現在ではペットボトルからペットボトルが生産されるなど、リサイクルのレベルが向上している。これ以上のリサイクルをすることは本当によいことなのか、国は2Rに舵をきった。大牟田市は工業都市なのでそのための産業振興としてエコタウンを考えており、ごみ問題として考えていない。希土類も技術開発により使用量が数分の1になった。エコタウンは安楽死を考えているのだと思う。それに使われているのが小型家電である。今度、全国のエコタウンの会議で基調講演を依頼されているが、その人たちに何を言えばいいのか。</p>

委員 この計画はよくまとまっている。多くの一般廃棄物処理基本計画は、自治体名を入れ替えれば通じてしまうものが多いが。目黒区の計画は清掃一組の位置づけに言及するなど独自性がある。この計画を区民に周知して行くに際して、減量目標の区民1人1日あたり451gという目標値は、区全体から排出されるごみの全量ではなく、区が収集している家庭ごみを中心のごみ量でかつ資源として出されるごみは除かれた量を対象として算定しているということを説明する必要がある。2Rの時代なので、資源を含めた量全体を減らす、あるいは、事業系ごみを含めたごみ全体を減らすという視点も必要である。買い物ルールには、各区民が賢い消費者としてふるまうことで、事業系ごみを減らすという役割もある。

委員 有料化にすれば、ごみを減らそうという動機になるのではないか。

会長 費用負担の公平性まで考えるべき課題で難しい。

### (2) 平成26年度目黒区のごみ量と資源量について

リ課長 (資料2により説明)

委員 統計資料の中に参考値としての扱いでよいので持込ごみの量も出すべきである。

### (3) 目黒区環境基本計画の改定の進め方について

環課長 (資料3により説明)

委員 環境基本計画に一般廃棄物処理基本計画はどのように反映されるのか。

環課長 計画の位置づけとしては、環境基本計画と一般廃棄物処理基本計画は同じレベルの計画であるが、この計画の内容を入れていきたいと考えている。

会長 世界の企業の中では、中期計画ではカバーしきれないことが常識となりつつあり、我が国もCOP21の目標数値は到底クリアできないだろう。欧米企業はビジョンという形で2050年を語るというスタイルをとっており、日本ではトヨタが実施しているので、是非、目黒区でも実施してほしい。

### 3. 閉会

以 上